No.145
2026.2月15日発行

紫芳会だより　～輝く先輩達～

楽しかった回り道

株式会社商船三井社長　**橋本（はしもと）　剛（たけし）　氏　（高校28期）**

1976年　立川高校卒業
1982年　京都大学文学部卒業
1982年　大阪商船三井船舶入社（1999年に「商船三井」に社名変更）
1989年～94年、2006年～2008年　ロンドン事務所で勤務
1994年以降はLNGを中心にエネルギー関係の仕事に従事
欧米、中東、インド、中国などを中心に通算500回ほど海外出張を経験する
2008年LNG船部長　2015年常務取締役　2021年から現職

■開花した立高時代

立川高校に在籍したのは1973年から76年までの3年間ですからもう50年も昔の話です。自身の方向性がなかなか定まらず、自問自答、試行錯誤の連続だった青春時代の中で、高校時代だけは明るい色彩に満ちたワクワク感があった時期でした。当時の息苦しい社会の風潮に流されていたのでしょうが、中学時代は陰気な受験勉強にすっかり気分が滅入り、冴えない生徒だった私が、自由な校風にフィットしたのか、高校に入ってから息を吹き返しました。合唱祭で指揮者になって入賞出来たこと、吹奏楽部の第一回の定期演奏会を仲間と開催できたこと、体育祭のキャンバス作成チームのキャップとして頑張ったことなどが良い思い出です。躊躇せず前に踏み出せば、自分でも何か出来そうだぞ、という妙な自信が付いた時期でありました。

■読書に耽った大学時代

自由を謳歌した立高在学中はあまり勉強しませんでしたが、授業中もドストエフスキーや大江健三郎氏の小説など、好きな本を読んでいる自分を黙って見逃してくれた先生も居られて、寛容な良い時代でした。将来は文学者か研究者になる事を目指し、一浪した後、京都大学の文学部に入学できましたが、生まれながらの語学の秀才たちに囲まれ大学院進学の道は早々と放棄、中学からずっと続けていた吹奏楽も大学楽団のレベルの高さに付いていくのがなかなか大変で、一年でやめてしまいました。さてこれからどうしようかと煩悶しながら、学生時代は文学、歴史、哲学中心にたくさん本を読みました。昼過ぎに起きて、夜明けまで毎日読書を続けるという世捨て人のような生活ですが、この模索期がその後の社会人人生には結構、役に立ったように思います。

■ビジネスマンとして

5年かけて何とか単位を揃えて卒業し、1982年に商船三井（当時は大阪商船三井船舶）に就職しました。若い頃に、財務関係の仕事についてロンドンで働いたおかげで、何とか英語を普通のビジネスでこなせるようになり、国際関係の仕事に就くことが多くなりました。我が国の産業構造が変化して製造業の海外移転が進み、海運業も日本顧客向けの輸出入中心から、いわゆる三国間貿易が増加して中国やインド、東南アジアなどを舞台にしたビジネスの比重が年々高まりました。

カタールでの契約調印

ダボス会議にて

海外での仕事が増え、各国のビジネスパートナーと一緒に仕事をし、事務所を開設して人を雇い、海外顧客を開拓するなど、コミュニケーションの重要性は増すばかりでしたが、できるだけ自由に、オープンに、率直にということを心がけてやってきました。インドでも中東でも欧米でも中国でもスタンスは変わりません。近年は会社の中も変化が加速し、外国人や女性の役員や幹部もかなり増えました。彼ら彼女らとあれこれ議論を重ねながら、事業経営に携わっていくのは日々発見があって楽しいです。社長になってからは国際会議等に参加する機会も増えましたが、ビジネスを離れた雑談の際などに、学生時代に苦労して読んだ古典や歴史の知識が案外役に立ち、当時の立高が持っていた、受験勉強よりも学問や教養を重んじる校風のおかげを感じています。